

# 甲南大学に TABLE FOR TWOを 導入することは可能か

経済学部 4回生 柘植ゼミナール

石川 忠佳	岩崎 晃司	太田 祥子	加藤由佳理
木下 雄斗	田中 里奈	塚原 瑠美	塚本 貴広
中島 悠太	中務 佑紀	吉本 理沙	余田 翔梧

## 目次

- I. はじめに
- II. TABLE FOR TWOとは
- III. 研究方法
- IV. 調査
- V. TABLE FOR TWOを導入するための提案
- VI. おわりに

アンケート調査票

脚注

参考文献、参考URL一覧

## I. はじめに

世界では、2010年から2012年の間に8億7000万人が飢餓に苦しみ、栄養不足で毎年250万人以上の子どもが命を落とす一方で、14億人が肥満による生活習慣病に悩まされるという矛盾を抱えている<sup>1</sup>。

TABLE FOR TWOとは、カロリーを抑えたメニューを学生食堂や社員食堂、カフェなどで提供し、購入すると1食につき20円がアフリカの学校給食支援に充てられる社会貢献活動である<sup>2</sup>。TABLE FOR TWOは日本語訳すると、「2人の食卓」を意味しており、途上国の食糧問題と先進国の肥満問題という2つの問題を同時に解決することを目的としている<sup>3</sup>。

本研究では、甲南大学でTABLE FOR TWOを導入することが可能であるかを検討した。TABLE FOR TWOを導入しても多くの人が寄付に協力するとは限らない。なぜならば、TABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が1食の寄付額である20円より低い人は、寄付に協力しないと考えられるからである。そこで、本研究では甲南大学生がTABLE FOR TWOに対してどのくらい支払ってもいいと考えているのかをアンケート調査を用いて明らかにする。調査の結果、TABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が20円以上ならば、TABLE FOR TWOを導入した場合、多くの甲南大学生が寄付に参加してくれると結論付けることができる。一方、TABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が20円より低いならば、TABLE FOR TWOを導入しても、多くの甲南大学生が寄付に参加してくれるとは結論付けることができないと考えられる。

## II. TABLE FOR TWOとは

TABLE FOR TWOは2007年に小暮真久氏が代表理事として設立した、NPO法人TABLE FOR TWO Internationalが運営する日本発の社会貢献活動である<sup>4</sup>。主な活動内容はアフリカの学校給食支援である<sup>5</sup>。

TABLE FOR TWOの仕組みはどのようなものだろうか。例えば、大学の学生食堂で野菜が豊富に使われた低カロリーの定食が380円で販売されているとする。仮にTABLE FOR TWOが導入されるなら、この定食はTABLE FOR TWO導入前の販売価格である380円にアフリカへの学校給食支援に対する寄付額である20円を上乘せし、400円で販売される。1食の寄付額が20円である理由はアフリカの学校給食1食分の費用が20円である<sup>6</sup>からである。つまり、TABLE FOR TWOの仕組みは対象となるヘルシーな食事を購入するだけで、1食につき20円が自動的にアフリカの学校給食支援1食分として寄付される<sup>7</sup>というものである。

TABLE FOR TWOには先進国と途上国の両方にメリットがある。先進国のメリッ

トとしては誰でも気軽に社会貢献できるということや、ヘルシーな食事を摂ることができるということが挙げられる<sup>8</sup>。一方、発展途上国では学校給食の配給により、途上国に住む親にとって、子どもたちに食事を与える必要がなくなるため、子どもたちを学校に通わせるインセンティブが生まれる<sup>9</sup>。そして、子どもたちは勉強をすることで識字率が上昇し、字が読めることで正しい情報が得られて生活環境の改善につながると考えられる<sup>10</sup>。例えば、子どもたちは掲示板やポスターの文字を読めるようになることで、エイズやマラリアに関する注意を正しく理解し、被害を防ぐことができると考えられる<sup>11</sup>。TABLE FOR TWOは支援する側と支援される側の両方にメリットがあるからこそ、先進国の肥満問題と発展途上国の飢餓問題を同時に解消することが可能である。

TABLE FOR TWOによってどれだけの学校給食がアフリカに届けられているのだろうか。TABLE FOR TWOが本格的に開始された2008年の1年間で597,652食、2012年の1年間で5,623,473食が届けられている<sup>12</sup>。つまり、比較すると約10倍に増加しているのである。

届けられた学校給食の数が増加した原因は参加団体数の増加にある。参加団体には企業や大学、レストラン、カフェなどがあり、その数は2008年では102団体であったが、2012年には536団体となっており、この5年間で約5倍に増加している<sup>13</sup>。

学校給食支援の数が増加した理由として、TABLE FOR TWOにはヘルシーな食事を購入する以外にも寄付の方法があることも挙げられる。例えば、FUTSAL FOR TWOとMOVIE FOR TWOである。FUTSAL FOR TWOとは、途上国の飢餓と先進国の肥満問題を同時に解決することを目的としたチャリティーフットサル大会である<sup>14</sup>。FUTSAL FOR TWOの仕組みは先進国でフットサルを行い、カロリー消費をすることで健康増進を促すとともに、参加費の一部やゴール数に応じた一定の金額をアフリカの学校給食支援に寄付するというものである<sup>15</sup>。MOVIE FOR TWOとは、「もったいない！」というドキュメンタリー映画を劇場で見るとき、上映料金を20円上乗せして販売し、チケット1枚につき20円がアフリカの学校給食支援に寄付される活動である<sup>16</sup>。このような取り組みは多くの人にTABLE FOR TWOやアフリカの食糧問題について関心を持ってもらうためのきっかけとなっている。

大学にTABLE FOR TWOを導入するメリットは2つある。それは大学内で気軽に寄付に参加できる活動であること、そして、大学生の手で導入や運営を行えることである。類似した寄付活動には国連WFP協会のRED CUP CAMPAIGNがある。RED CUP CAMPAIGNとは対象商品を購入するだけで売上や手数料の一部が学校給食支援に寄付される活動のことである<sup>17</sup>。TABLE FOR TWOとRED CUP CAMPAIGNを比較すると、共通点として大学内で手軽に寄付に参加できることが挙げられるが、

TABLE FOR TWOには運営やイベントの企画に大学生が関与できるという、RED CUP CAMPAIGNにはないメリットがある。TABLE FOR TWOにはTABLE FOR TWO大学連合という組織がある。TABLE FOR TWO大学連合とは日本全国の155校以上、約1,500人の大学生で構成されている学生組織である<sup>18</sup>。TABLE FOR TWO大学連合のメンバーは所属大学の学生食堂にてTABLE FOR TWOの導入や運営サポートを行う<sup>19</sup>。さらに、飲食店とのコラボレーション企画などのイベントも実施している<sup>20</sup>。TABLE FOR TWOは気軽に寄付に参加したい大学生と導入や運営に参加したい大学生の両方から支持される寄付活動なのである。

大学内でTABLE FOR TWOがどのような活動をしているのかをより詳しく知るために、兵庫県の大学で最初にTABLE FOR TWOを導入した甲南女子大学を訪ねて、フィールドワークを行った。フィールドワークを行って、わかったことは以下の通りである。第一に、TABLE FOR TWOを導入したきっかけは2010年のゼミ活動であり、活動の幅を広げるために甲南女子大学生によるTABLE FOR TWO委員会を設立し、甲南女子大学生協と協力して運営していることである。第二に、TABLE FOR TWO委員会の主な活動は学生食堂でのTABLE FOR TWOメニューの考案、商品の販売、ポスターやチラシでの宣伝であり、このほかにも講演会や試食会などのイベントを行っていることである。第三に、このような活動を通して、2010年から2012年の2年間で3,407食のTABLE FOR TWOメニューを販売し、68,140円を寄付したことである。第四に、しかしながら認知度が低く、TABLE FOR TWOを通して学校給食支援に寄付されることを知らずにTABLE FOR TWOメニューを購入している学生が多いという問題点があることである。

### Ⅲ. 研究方法

甲南大学でTABLE FOR TWOの導入を可能にするためには多くの甲南大学生が寄付に参加する必要がある。

では、人々がTABLE FOR TWOを通して寄付に参加するかどうかを判断する基準はどのようなものだろうか。TABLE FOR TWOを通して寄付に協力するとき、寄付の協力者はTABLE FOR TWOが導入されたヘルシーなメニューを購入することになる。よって、人々が食事を購入するかどうか判断する状況を考えてみることにした。

人々はどうやって食事を購入するかどうかを判断しているのだろうか。一例として、コンビニで150円のおにぎりが販売されている状況を考えよう。おにぎりに対して100円しか支払いたくないと思っているとき、おにぎりを購入しないだろう。反対に、200円まで支払ってもいいと考えているならば、おにぎりを購入するだろう。つまり、人々は食事を購入するかどうか判断するとき、食事を購入するために支払って

もいいと思う金額と支払わなければならない金額を比べているのである。

このような判断の仕組みはTABLE FOR TWOの寄付についてもあてはまるのではないだろうか。TABLE FOR TWOを通して寄付に協力するとき、支払わなければならない金額は20円である。よって、人々がTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が20円以上ならば、人々はTABLE FOR TWOの寄付に協力し、TABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が20円より少ないならば、TABLE FOR TWOの寄付に協力しないと判断するのである。よって、大学生がTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額を調査することができれば、今後TABLE FOR TWOの導入を検討している大学にとって、TABLE FOR TWOの導入が可能かどうか判断する基準になると考える。

そこで、本研究では、甲南大学にTABLE FOR TWOを導入することが可能であるかを明らかにするために、甲南大学生がTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額を調査する。そして、甲南大学生のTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が20円以上ならば、甲南大学にTABLE FOR TWOを導入することは可能であると判断する。一方、甲南大学生のTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額が20円より低いならば、甲南大学にTABLE FOR TWOを導入することは不可能であると判断する。

#### IV. 調査

本研究では、仮想評価法（contingent valuation method : CVM）を用いて、甲南大学生がTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額を調査する。

CVMとは仮想的な環境対策を人々に示して、人々が環境を改善するために支払ってもいいと思う金額である支払意志額（willingness to pay : WTP）をアンケート調査で質問することで、環境改善の価値を金額で評価する手法である<sup>21</sup>。

水道水の水質改善を例として具体的に説明する。ある国の水道水は飲料水として使えるほどきれいではないとする。ここで、この水道水がきれいになり、誰もが飲料水として使えるようになるという仮想的な状況を説明する。ただし、水道水をきれいにするためには水道料金を追加的に支払わなくてはならないと仮定する。このとき、「このような水質改善を実現するために、水道料金を追加的にいくら支払ってもいいですか」という質問を行い、この水質改善に対するWTPを推定する。このWTPは、水道水がきれいになることの価値を表す。水道水がきれいになるために、1,000円の水道料金を追加的に払ってもいいと考える人もいれば、1円たりとも追加的に水道料金を払いたくないと考える人もいるだろう。このように人々の価値観によって支払ってもいい金額は異なる。CVMでは、アンケートにより1人1人のWTPを調査し、アンケ

ート回答者全体の平均的なWTPを推定する。

本研究におけるアンケートはA 4用紙3枚で構成されている。内容は大きく分けて3つある。それはTABLE FOR TWOの概要の説明、回答者の個人属性についての10個の質問、そして、CVMに関する質問である。

CVMに関する質問では、TABLE FOR TWOの寄付額を提示して、寄付に協力するか否かを2度たずねた。CVMでは、4～6種類の提示額を用意する<sup>22</sup>。本研究におけるアンケートでは表1のように、5種類の提示額を用意した。回答者が1回目の提示額に賛成するとき、2回目の提示額は1回目の提示額より高くした。また、回答者が1回目の提示額に反対したとき、2回目の提示額は1回目の提示額より低くした。

表1 提示する寄付額の一覧

	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5
1回目の提示額（円）	10	20	40	60	100
「はい」と答えた回答者への提示額（円）	20	40	60	100	150
「いいえ」と答えた回答者への提示額（円）	5	10	20	40	60

2013年11月6日から2013年11月13日にかけて、甲南大学生180人を対象にアンケートを実施した。アンケートは手渡しで配布した。また、アンケート回答者に対してTABLE FOR TWOに関する口頭による説明は行わず、自分自身でアンケートに記載された説明を読んで回答してもらった。アンケート項目の記入漏れや不備が原因である無効回答を14部除き、166部を分析に用いる。

まず、回答者の個人属性についての10個の質問について、集計結果を述べる。

回答者の性別は表2の通りである。男性の方が少し多いが、男女ほぼ同じ割合になった。

表2 性別 集計結果

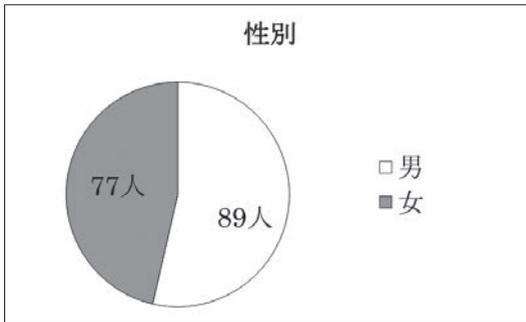
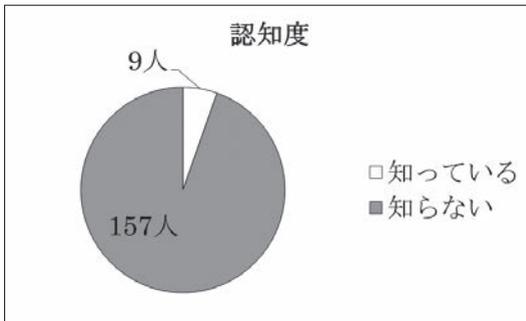


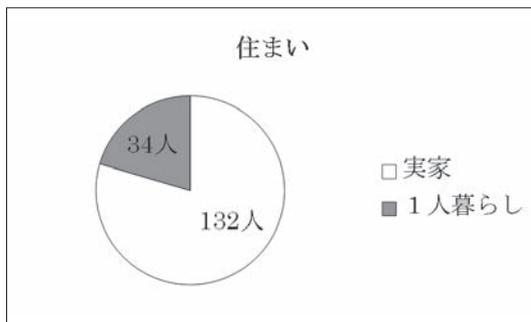
TABLE FOR TWOの認知度は表3の通りである。アンケート配布前の予想通り、TABLE FOR TWOを知らない人が大半であった。

表3 認知度 集計結果



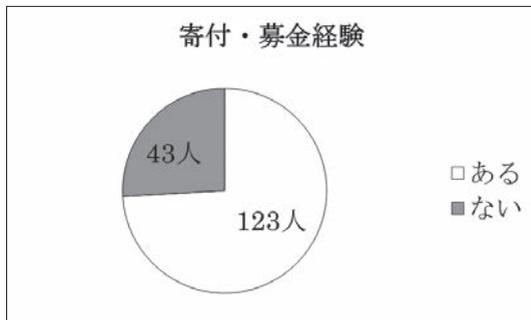
現在の住まいをたずねた結果は表4の通りである。約7割が実家暮らしであった。

表4 住まい 集計結果



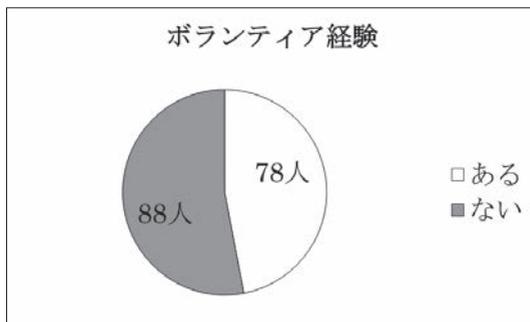
寄付・募金経験の有無については、表5の通りである。寄付・募金経験の有無をたずねた理由は寄付・募金経験がある人はTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが高い傾向にあると考えたからである。アンケート配布前の予想以上に寄付・募金経験のある回答者が多かった。全体の約4分の3の人々が寄付や募金を経験していた。

表5 寄付・募金経験 集計結果



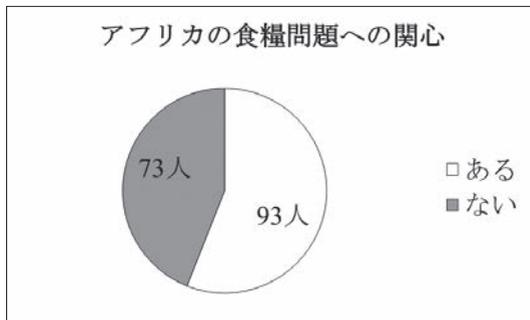
ボランティア経験の有無については、表6の通りである。ボランティア経験の有無をたずねた理由はボランティア経験がある人はTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが高い傾向にあると考えたからである。アンケート配布前の予想通り、ボランティアの経験がない人の方が多い結果となった。

表6 ボランティア経験 集計結果



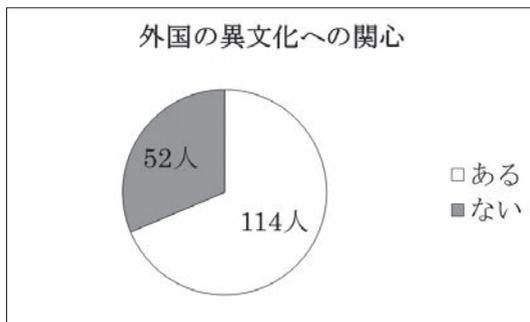
アフリカの食糧問題に関心があるかをたずねた結果は表7の通りである。関心がある人が関心がない人を上回る結果となった。アフリカの食糧問題に対する関心をたずねた理由はアフリカの食糧問題に関心がある人はTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが高い傾向にあると考えたからである。

表7 アフリカの食糧問題への関心 集計結果



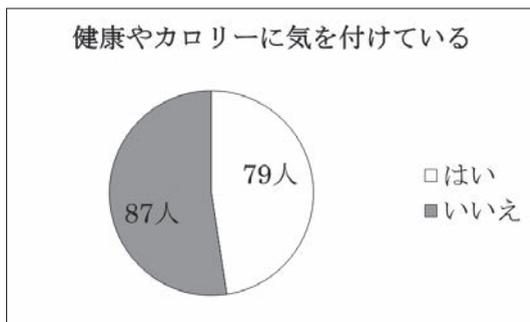
外国の異文化に関心があるかをたずねた結果は表8の通りである。約7割の人は関心があると回答した。外国の異文化に関心があるかをたずねた理由はTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが外国の異文化に関心があるかどうかに影響されるのを知りたいからである。もし、外国の異文化に関心がある人のTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが高い傾向にあるならば、甲南大学にTABLE FOR TWOを導入するとき、TABLE FOR TWOの対象となるメニューに外国の食文化を取り入れることで、より甲南大学生がTABLE FOR TWOの寄付に協力するのではないかと考える。

表8 外国の異文化への関心 集計結果



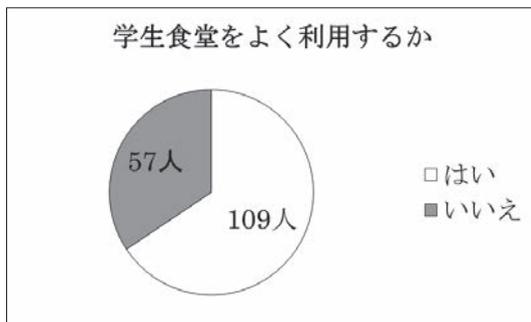
健康やカロリーに気を付けているかどうかをたずねた結果は表9の通りである。健康やカロリーに気を付けているのかをたずねた理由は健康やカロリーに気を付けている人はTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが高い傾向にあると考えたからである。集計結果は気にする人と気にしない人はほぼ同じ割合であるが、気にしない人が少し多かった。甲南大学生は健康やカロリーより、メニューの量や食べごたえを気にしているものと考えられる。

表9 健康やカロリーに気を付けているか 集計結果



学生食堂をよく利用しているかどうかをたずねた結果は表10の通りである。回答者全体の3分の2以上の人々が学生食堂をよく利用していることが明らかとなった。

表10 よく学生食堂を利用するか 集計結果



学生食堂での1回の昼食代については、表11の通りである。回答者全体の平均値は451円、中央値は400円であった。昼食代をたずねた理由は昼食代の高い人はTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPが高い傾向にあると考えたからである。

表11 学生食堂での1回の昼食代

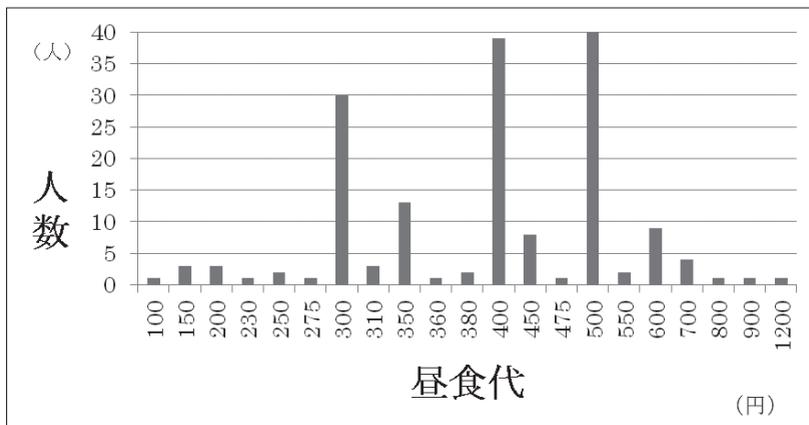


TABLE FOR TWOの寄付額を提示し、寄付に協力するか否かをたずねる質問における、1回目と2回目の提示額に対する賛成と反対の数を集計したものが表12である。

表12 1回目と2回目の提示額に対する回答

	ケース1	ケース2	ケース3	ケース4	ケース5
1回目の提示額 (円)	10	20	40	60	100
「はい」と答えた回答者への提示額 (円)	20	40	60	100	150
「いいえ」と答えた回答者への提示額 (円)	5	10	20	40	60
2回とも「はい」と答えた回答者 (人)	18	18	17	11	9
1回目「はい」2回目「いいえ」と答えた回答者 (人)	6	7	11	15	4
1回目「いいえ」2回目「はい」と答えた回答者 (人)	0	5	10	7	4
2回とも「いいえ」と答えた回答者 (人)	7	1	3	6	7

これらの集計結果をもとに、甲南大学生のTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPを推定する<sup>23</sup>。推定方法として、対数線形ロジットモデルを用いた<sup>24</sup>。表13は、CVMの質問に対して「はい」と回答した場合の効用と「いいえ」と回答した場合の効用の差を表す効用差関数の推定結果を示している。constantとは、TABLE FOR TWOに寄付することで得られる追加的な効用を表しており、係数の値がプラスであることから、人々がTABLE FOR TWOに寄付することで効用を得ていることがわかる。ln (Bid)とは、支払金額が上がることに對する効用を表しており、係数がマイナスであることから、支払金額の上昇は効用を低下させることがわかる。次に、この2つの説明変数がCVMの質問に対する回答に影響しているのかを確認する。表13のt値が絶対値2以上であり、p値は0であることから、2つの説明変数がCVMの質問に対する回答に影響していることがわかる。

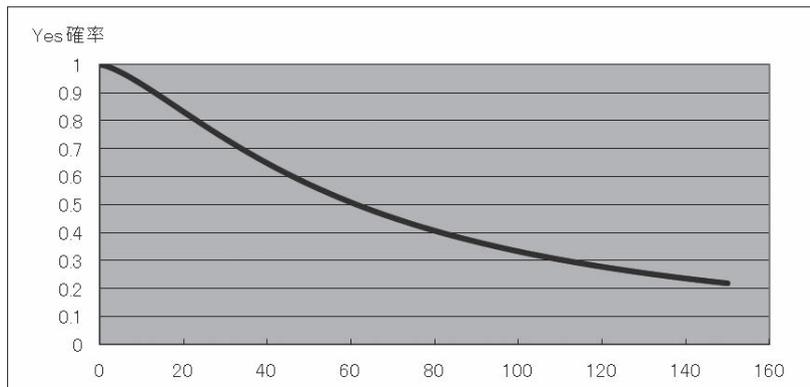
表13 効用差関数の推定結果

変数	係数	t 値	p 値
constant	5.8688	12.267	0.000***
ln (Bid)	-1.4261	-11.673	0.000***
n	166		
対数尤度	-224.364		

WTPの中央値はCVMにおいて、「はい」と答える確率が50%になるときの提示額のことである。表14のグラフはCVMにおいて回答者にある提示額を見せたとき、「は

い」と答える確率がどのくらいなのかを表したものである。横軸が提示額、縦軸が「はい」と答える確率を示している。グラフを見ると、提示額が上がるほど、回答者が「はい」と答える確率が低くなっていることが分かる。ここで、「はい」と答える確率が50%のとき、提示額は61円であると示されている。よって、甲南大学生のTABLE FOR TWOの寄付に対するWTPは61円であると言える。

表14 各提示額における「はい」と答える確率



さらに、回答者の個人属性を含めた上で、WTPを推定した<sup>25</sup>。また、推定方法として対数線形ロジットモデルを用いた<sup>26</sup>。表15は回答者の個人属性を含めた場合のWTPの推定結果である。constantでは、係数の値がプラスであることから、人々がTABLE FOR TWOに寄付することで効用を得ていることがわかる。ln(Bid)では、係数がマイナスであることから、支払金額の上昇は効用を低下させることがわかる。次に、この2つの説明変数がCVMの質問に対する回答に影響しているのかを確認する。表のt値が絶対値2以上であり、p値は0であることから、2つの説明変数がCVMの質問に対する回答に影響していることがわかる。同様に、回答者の個人属性である10の説明変数がCVMの質問に対する回答に影響しているのかを確認する。t値が絶対値2以上であり、p値が0.05以下であることから、性別（女性の場合1）、アフリカの食糧問題への関心（関心がある場合1）、昼食代（昼食代が500円以上の場合1）という3つの説明変数はCVMの質問に対する回答に影響していることが明らかとなった。

表15 回答者の個人属性を含めた効用差関数の推定結果

変数	係数	t 値	p 値
constant	4.1294	4.481	0.000***
ln (Bid)	-1.6825	-11.333	0.000***
性別	-1.0834	-2.716	0.007***
住まい	0.3361	0.807	0.421
認知	0.8271	1.124	0.262
寄付・募金	0.4230	1.030	0.304
ボランティア活動	0.4244	1.146	0.253
アフリカの食糧問題	1.4213	4.050	0.000***
異文化	0.2306	0.686	0.494
健康やカロリー	-0.2170	-0.629	0.530
よく利用	0.3835	0.999	0.319
昼食代	0.0034	2.398	0.018**
サンプル数	166		
対数尤度	-203.7963		

回答者の個人属性を含めたWTPの推定した結果、女性、食糧問題に関心がある人、1回の昼食代が500円以上の人はWTPが高い傾向にあることが明らかとなった。推定したWTPは女性が71円、食糧問題に関心がある人が86円、1回の昼食代が500円以上の人が76円であった。寄付・募金経験、ボランティア経験、健康やカロリーを気にするかという特徴はWTPに影響しないことが明らかとなった。その理由として、TABLE FOR TWOが他の社会貢献活動と比べて、寄付・募金やボランティア経験に影響されないほど気軽に寄付に協力できるものであるからだと考える。また、甲南大学生はメニューのカロリーより量を意識するのではないかと考える。そして、1人暮らしかどうか、TABLE FOR TWOを知っているか、外国の異文化への関心、学生食堂をよく利用するかという4つの特徴は、WTPに影響しないことが明らかとなった。

調査の結果を表16にまとめた。調査の結果、甲南大学生のTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額は61円であった。ゆえに、甲南大学生のTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと思う金額はTABLE FOR TWOの寄付額である20円を上回ったので、甲南大学でTABLE FOR TWOを導入することは可能であるといえる。

表16 調査結果まとめ

推定方法	WTPに影響するか	WTPの推定結果
全ての回答者	影響する	61円
性別	影響する	71円（女性のみの場合）
住まい	影響しない	
認知	影響しない	
寄付・募金	影響しない	
ボランティア活動	影響しない	
アフリカの食糧問題	影響する	86円（関心がある人のみの場合）
異文化	影響しない	
健康やカロリー	影響しない	
よく利用	影響しない	
昼食代	影響する	76円（500円以上の人のみの場合）

## V. TABLE FOR TWOの導入を実現するための提案

本研究を踏まえて、甲南大学でのTABLE FOR TWO導入を実現するための提案が2つ考えられる。

1つ目の提案は甲南大学生にTABLE FOR TWOへの興味を持ってもらうために、甲南大学生が親しみやすい学内イベントを開催することである。アンケート調査の結果、TABLE FOR TWOに対する甲南大学生の認知度が低いことがわかった。そのため、TABLE FOR TWOを導入しても、多くの甲南大学生がTABLE FOR TWOを通して寄付に協力しないかもしれない。このことを防ぐために、甲南大学生の認知度を上げ、TABLE FOR TWOへの興味を持ってもらうための学内イベントを開催する。学内イベントの内容はTABLE FOR TWOメニューの試食会とFUTSAL FOR TWOである。さらに、FUTSAL FOR TWOは参加費をできるだけ低くして行う。なぜなら、参加者にとって支払金額の少ないイベントにすることで、イベントへの参加者数を増やしたいからである。このようなイベントはTABLE FOR TWOの存在とTABLE FOR TWOにより気軽に寄付に協力できることをアピールできるため、より多くの甲南大学生にTABLE FOR TWOを知ってもらうきっかけになるのではないかと考える。

2つ目の提案はアフリカの食糧問題に関心がある甲南大学生に向けて、講演会や勉強会を実施するというものである。なぜなら、アンケート結果よりアフリカの食糧問題に関心がある人はWTPが高いため、TABLE FOR TWOがアフリカの食糧問題の

解決につながることをアピールすることで、TABLE FOR TWOに寄付する甲南大学生を増やすことができると考えられるからである。講演会では、TABLE FOR TWOの運営に携わっている方を甲南大学に招き、TABLE FOR TWOの活動やアフリカの实情について学ぶ。勉強会では、参加者同士でTABLE FOR TWOを広める活動について議論する。このような活動を通して、TABLE FOR TWOへの関心を持ってもらうことで寄付に協力するだけでなく、TABLE FOR TWOの導入や運営サポートに携わりたいと考える甲南大学生を増やしていけるのではないかと考える。

## VI. おわりに

甲南大学生がTABLE FOR TWOに対して支払ってもいいと考える金額は61円である。この金額はTABLE FOR TWOの寄付額20円を上回るため、甲南大学でTABLE FOR TWOを導入することは可能であると結論付けられる。本研究で用いた研究方法を他大学でも活用することで、今後TABLE FOR TWOの導入を検討している大学にとって、TABLE FOR TWOの導入が可能かどうかを判断する材料になると考える。

また、甲南大学でのTABLE FOR TWO導入を実現するための提案を2つ行った。それは甲南大学生に親しみやすい学内イベントを開催すること、そして、講演会や勉強会の実施である。さらに、ポスターや呼びかけといった宣伝活動が必要である。そのために、キャッチコピーを考えることや他の大学や地域と連携することも大切であると考える。

以上のような取り組みを行うことで、より多くの甲南大学生がTABLE FOR TWOの寄付に協力するであろう。日本での寄付のイメージは高所得者や社会貢献に関心のある人だけが行うものといったものかもしれない。しかし、TABLE FOR TWOはヘルシーな食事を購入するだけで気軽に寄付できる。ゆえに、TABLE FOR TWOには日本での寄付のイメージを誰もが気軽に行うというものに変える力があると考えられる。TABLE FOR TWOの寄付に協力することをきっかけに、食糧問題に関心を持つ人や社会貢献活動にアクションを起こす人が増えることを願っている。

## 昼食についてのアンケート

甲南大学経済学部 柘植ゼミ5期生

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。私たちはTABLE FOR TWO（略称TFT）という活動に着目し、研究しています。このアンケートは、甲南大学生の昼食に対する意見を把握するために実施しています。お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、ご協力よろしく願いたします。

「TABLE FOR TWO」とは、カフェや食堂で考案した低カロリーの食事を購入することで、アフリカの子どものための学校給食支援の寄付ができる制度です。



以下の質問にお答えください。質問は3ページまで続きます。

1. あてはまる性別に○をつけてください。  
( 男 女 )
2. あなたはTABLE FOR TWOという活動を知っていますか。  
あてはまるものに○をつけてください。



11. あなたが甲南大学の食堂で昼食を食べる状況を想定してください。食堂には、野菜の少ない普通のメニューとTFTメニューの2種類があります。10円料金が上乗せされたTFTメニューを食べることにより、アフリカで食糧不足に苦しむ子供たちへ給食0.5食分に相当するお金を寄付することができます。あなたなら寄付額が10円のTFTメニューを食べますか？

① はい	② いいえ
↓	↓
<p>「①はい」と答えた方にお聞きします。</p> <p>TFTメニューの寄付額（上乗せされる金額）が20円だとしたら、あなたはTFTメニューを食べますか？</p> <p>① はい ② いいえ</p>	<p>「②いいえ」と答えた方にお聞きします。</p> <p>TFTメニューの寄付額（上乗せされる金額）が5円だとしたら、あなたはTFTメニューを食べますか？</p> <p>① はい ② いいえ</p> <p style="text-align: right;">↓</p>
<p>「②いいえ」と答えた方にお聞きします。回答の理由を次の中から1つ選択してください。</p> <p>① 寄付額が高すぎる ② アフリカの子供たちへの給食支援に関心がない ③ TFTメニュー自体に魅力がない ④ その他</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100px; margin-top: 10px;"></div>	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

## 脚注

---

- 1 社団法人日本農林業協働協会「JAICAF 世界の食料不安の現状2012年報告  
([http://www.jaicaf.or.jp/fileadmin/user\\_upload/publications/SOFI2012-J.pdf](http://www.jaicaf.or.jp/fileadmin/user_upload/publications/SOFI2012-J.pdf),  
2013年3月)
- 2 TABLE FOR TWO 公式サイト「TFTについて 概要」  
(<http://jp.tablefor2.org/aboutus/profile.html>)
- 3 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO  
International」  
([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf), 2013年5月)
- 4 TABLE FOR TWO 公式サイト「TFTについて 組織概要」  
(<http://jp.tablefor2.org/aboutus/organization.html>)
- 5 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO  
International」  
([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf), 2013年5月)
- 6 小暮真久『20代からはじめる社会貢献』（PHP 新書、2011年、38頁）
- 7 小暮真久『20代からはじめる社会貢献』（PHP 新書、2011年、38頁）
- 8 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO  
International」([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf), 2013年5月)
- 9 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO  
International」  
([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf), 2013年5月)
- 10 小暮真久『20代からはじめる社会貢献』（PHP 新書、2011年、49頁）
- 11 小暮真久『20代からはじめる社会貢献』（PHP 新書、2011年、49頁）
- 12 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO  
International」  
([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf), 2013年5月)
- 13 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO  
International」  
([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf), 2013年5月)
- 14 FUTSAL FOR TWO「FUTSAL FOR TWO とは」  
(<http://futsal-for-two.jimdo.com/futsal-for-two%E3%81%A8%E3%81%AF/>)
- 15 FUTSAL FOR TWO「FUTSAL FOR TWO とは」

- (<http://futsal-for-two.jimdo.com/futsal-for-two%E3%81%A8%E3%81%AF/>)
- 16 ドキュメンタリー映画 もったいない！「《MOVIE FOR TWO》映画 もったいない！× TABLE FOR TWO」(<http://mottainai-eiga.com/MFT/mft.html>)
  - 17 国連 WFP 協会 RED CUP CAMPAIGN「RED CUP CAMPAIGNに参加するには」(<http://www.redcup.jp/about/join/>)
  - 18 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO International」([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf)、2013年5月)
  - 19 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO International」([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf)、2013年5月)
  - 20 TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO International」([http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf)、2013年5月)
  - 21 栗山浩一・柘植隆宏・庄子康『初心者のための環境評価入門』（勁草書房、2013年、110頁）
  - 22 栗山浩一・柘植隆宏・庄子康『初心者のための環境評価入門』（勁草書房、2013年、165頁）
  - 23 WTPの推定のために、以下のファイルを活用した。  
栗山浩一「ExcelでできるCVM Version 4.0」(<http://kkuri.eco.coocan.jp/>、2012年10月)
  - 24 栗山浩一・柘植隆宏・庄子康『初心者のための環境評価入門』（勁草書房、2013年、140頁）
  - 25 WTPの推定のために、以下のファイルを活用した。  
栗山浩一「ExcelでできるCVM Version 4.0」(<http://kkuri.eco.coocan.jp/>、2012年10月)
  - 26 栗山浩一・柘植隆宏・庄子康『初心者のための環境評価入門』（勁草書房、2013年、140頁）

### 【参考文献、参考URL一覧】

#### 参考文献

- ・小暮真久『20代からはじめる社会貢献』（PHP新書、2011年）
- ・小暮真久『20円で世界をつなぐ仕事：“想い”と“頭脳”で稼ぐ社会起業実践ガイド』（日本能率協会マネジメントセンター、2009年）

- ・小暮真久『社会をよくしてお金も稼げるしくみのつくりかた』（ダイヤモンド社、2012年）
- ・栗山浩一・柘植隆宏・庄子康『初心者のための環境評価入門』（勁草書房、2013年）

#### 参考 URL

- ・栗山浩一「Excel でできる CVM Version 4.0」 <http://kkuri.eco.coocan.jp/>
- ・社団法人日本農林業協働協会「JAICAF 世界の食料不安の現状2012年報告」  
[http://www.jaicaf.or.jp/fileadmin/user\\_upload/publications/SOFI2012-J.pdf](http://www.jaicaf.or.jp/fileadmin/user_upload/publications/SOFI2012-J.pdf)
- ・TABLE FOR TWO「アフリカの子どもたちに給食を TABLE FOR TWO 公式サイト」 <http://jp.tablefor2.org/>
- ・TABLE FOR TWO International「Annual Report 2012 TABLE FOR TWO International」 [http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT\\_annual\\_report\\_2012.pdf](http://jp.tablefor2.org/assets/pdfs/TFT_annual_report_2012.pdf)
- ・FUTSAL FOR TWO <http://futsal-for-two.jimdo.com/>
- ・国連 WFP 協会 RED CUP CAMPAIGN「RED CUP CAMPAIGN | 地球の飢餓を救え」 <http://www.redcup.jp/>
- ・国連 WFP 協会「国連 WFP 協会活動報告書2012」  
[http://ja.wfp.org/sites/default/files/ja/file/wfp\\_annualreport2012.pdf](http://ja.wfp.org/sites/default/files/ja/file/wfp_annualreport2012.pdf)
- ・国連児童基金「世界子供白書2012」 <http://www.unicef.or.jp/library/pdf/haku2012.pdf>
- ・ドキュメンタリー映画 もったいない！「《MOVIE FOR TWO》映画 もったいない！  
× TABLE FOR TWO」 <http://mottainai-eiga.com/MFT/mft.html>